



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 9 月 1 日 (日)

発行 館長 加藤 智 一

カメムシ

今年、農協や卸売業者が保有する主食用のコメの在庫は、6 月末時点で 156 万トンと過去最低。もしかしたら、先日の南海トラフ巨大地震注意情報も影響し、多くの方が、非常用食料備蓄に走ったのも理由かもしれませんし、インバウンドの増加で、コメの消費が増えたのかもしれませんが、主たる要因ではないでしょう。じゃなぜ？やっぱり害虫によるコメの品質低下でしょうか？と疑ったのは私だけではないはず。現に去年は、カメムシによるコメへの被害が幾例か報告されていました。特に「斑点米カメムシ」が問題となっており、米粒に茶色い斑点が現れることで品質が低下し、取引価格が下がることが懸念されていました。千葉県調査では、斑点米カメムシの捕獲数が過去 10 年で最も多く、県内全域で多発するおそれがあるとされています。また、鳥取県でも約 7 割の農地でカメムシの発生が確認されており、一昨年を大きく上回る状況でした。しかし、2023 年産米の場合、コメの出来具合を示す「作況指数」は 101 で平年並み。凶作だったわけではありません。そうすると、原因は？ちょっとよく分からない。カメムシを悪者にしたついでに、カメムシについて深掘りしてみましよう。

カメムシは、カメムシ目カメムシ亜目に属する昆虫の総称です。日本には 1000 種以上が生息しています。悪臭を放つことで知られているので、「クサムシ」や「こき虫」という俗称があります。頭は先端が尖った三角形、前胸は左右に張り、翅に覆われた胴体は後ろすぼみになっているので、全体はおおよそ五角形の底を引き伸ばしたような形のものが一般的です。カメムシの寿命は 1 年～1 年半ほどであり、この一生の中で、何度も産卵します。カメムシは前年に生まれ、越冬を経て、梅雨時期(5 月下旬～8 月)にかけて産卵します。カメムシの卵は円筒形で、「卵塊(ランカイ)」とも呼ばれ、数十個の卵が集まった「かたまり」として産み付けられ、一週間から 10 日ほどで羽化をします。幼虫は成虫とほぼ同じ形ですが、模様が異なります。蛹を経過せずに羽化する、不完全変態です。イネの害虫として知られている「斑点米カメムシ」には、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシなどがあり、葉や茎から汁を吸うほか、若い籾から汁を吸われると、米粒が茶色になってしまいます(斑点米)。

こんな嫌われ者のカメムシですので、一匹でもド

アや窓に張り付いていると、もう大騒ぎ。人間どもは、様々な駆除法をあみ出してきました。昨年、温泉旅館にお泊りした際には、部屋に布ガムテープが常備されていました。使い方を説明しますと、まず、カメムシを発見したら、ガムテープを長さ約 10cm～15cm に切り取ります。次に切り取ったガムテープを縦(または横)にして粘着部分をカメムシに気付かれないように、そっとカメムシの背中(羽根部分)に近づけます。この時、ガムテープの縦半分の上のほうの中央に粘着部分がカメムシに当たるようにします。次にカメムシが布ガムテープにくっいたら、素早くガムテープを二つ折りにします。そして、三辺の隙間を閉じます。これで、カメムシが臭いを発散しても周囲には漏れることはありません。これは言ってみれば「生け捕り」なので、間違っても、捕獲されたカメムシをガムテープの上から潰したりはしないでください。後は、ごみ箱やごみ袋などに捨ててお終いです。



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ